

● 病期分類(上咽頭以外共通)

0期	Tis	N0	M0
I期	T1	N0	M0
II期	T2	N0	M0
III期	T3	N0	M0
	T1, T2, T3	N1	M0
IVA期	T4a	N0, N1	M0
	T1, T2, T3, T4a	N2	M0
IVB期	Tに関係なく	N3	M0
	T4b	Nに関係なく	M0
IVC期	Tに関係なく	Nに関係なく	M1

2 口唇および口腔

● T因子

T1	最大径が2cm以下の腫瘍
T2	最大径が2cmを超えるが4cm以下の腫瘍
T3	最大径が4cmを超える腫瘍
T4a	口唇: 皮質骨, 下歯槽神経, 口腔底, 皮膚(顎または外鼻)に浸潤する腫瘍
T4a	口腔: 皮質骨, 舌深層の筋肉/外舌筋(オトガイ舌筋, 舌骨舌筋, 口蓋舌筋, 茎突舌筋), 上顎洞, 顔面の皮膚に浸潤する腫瘍
T4b	口唇および口腔: 咀嚼筋間隙, 翼状突起, または頭蓋底に浸潤する腫瘍, または内頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍

注: 歯肉を原発巣とし, 骨および歯槽のみに表在性びらんが認められる症例はT4としない。

3 上咽頭

● T 因子

上咽頭

T1	上咽頭に限局する腫瘍または中咽頭および / または鼻腔に進展する腫瘍
T2	傍咽頭間隙間への進展を伴う腫瘍*
T3	頭蓋底骨組織および / または副鼻腔に浸潤する腫瘍
T4	頭蓋内に進展する腫瘍および / または脳神経を取り囲む腫瘍, 下咽頭, 眼窩に浸潤する腫瘍, または側頭下窩 / 咀嚼筋間隙の進展を伴う腫瘍

注: *傍咽頭間隙への進展とは, 後外側への浸潤を意味する。

● N 因子

N- 所属リンパ節(上咽頭)

N1	鎖骨上窩より上方の, 片側頸部リンパ節転移および / または片側 / 両側咽頭後リンパ節転移で最大径が 6cm 以下
N2	鎖骨上窩より上方の両側頸部リンパ節転移で最大径が 6cm 以下
N3	最大径が 6cm を超える頸部リンパ節転移, または鎖骨上窩の頸部リンパ節転移
N3a	最大径が 6cm を超えるリンパ節転移
N3b	鎖骨上窩のリンパ節転移

注: 正中リンパ節は同側リンパ節である。

● 病期分類

0 期	Tis	N0	M0
I 期	T1	N0	M0
II 期	T1	N1	M0
	T2	N0, N1	M0
III 期	T1, T2	N2	M0
	T3	N0, N1, N2	M0
IVA 期	T4	N0, N1, N2	M0
IVB 期	T に関係なく	N3	M0
IVC 期	T に関係なく	N に関係なく	M1

4 中咽頭

● T 因子

中咽頭

T1	最大径が 2cm 以下の腫瘍
T2	最大径が 2cm を超えるが 4cm 以下の腫瘍
T3	最大径が 4cm を超える腫瘍, または喉頭蓋舌面へ進展する腫瘍
T4a	喉頭, 舌深層の筋肉 / 外舌筋(オトガイ舌筋, 舌骨舌筋, 口蓋舌筋, 茎突舌筋), 内側翼突筋, 硬口蓋, および下顎骨のいずれかに浸潤する腫瘍*
T4b	外側翼突筋, 翼状突起, 上咽頭側壁, 頭蓋底のいずれかに浸潤する腫瘍, または頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍

注: *舌根または喉頭蓋谷の原発腫瘍から喉頭蓋舌面粘膜への進展は喉頭浸潤ではない。

5 下咽頭

● T 因子

下咽頭

T1	下咽頭の 1 亜部位に限局し, および / または最大径が 2cm 以下の腫瘍
T2	片側喉頭の固定がなく, 下咽頭の 1 亜部位を超えるか, 隣接部位に浸潤する腫瘍, または最大径が 2cm を超えるが 4cm 以下で片側の喉頭の固定がない腫瘍
T3	最大径が 4cm を超えるか, または片側喉頭の固定, または食道へ進展する腫瘍
T4a	甲状軟骨, 輪状軟骨, 舌骨, 甲状腺, 頸部正中軟部組織*のいずれかに浸潤する腫瘍
T4b	椎前筋膜への浸潤, 頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍, または縦隔に浸潤する腫瘍

注: *頸部正中軟部組織には, 前頭筋群および皮下脂肪組織が含まれる。

6 喉 頭

● T 因子

声門上部

- T1 声帯運動が正常で、声門上部の1亜部位に限局する腫瘍
- T2 喉頭の固定がなく、声門上部の他の亜部位、声門または声門上部の外側域(例えば舌根粘膜、喉頭蓋谷、梨状陥凹の内壁など)の粘膜に浸潤する腫瘍
- T3 声帯が固定し喉頭に限局するもの、および/または輪状後部、喉頭蓋前間隙に浸潤する腫瘍、傍声帯間隙浸潤、および/または甲状軟骨の内側に浸潤する腫瘍
- T4a 甲状軟骨を破って浸潤する腫瘍、および/または喉頭外、すなわち気管、舌深層の筋肉/外舌筋(オトガイ舌筋、舌骨舌筋、口蓋舌筋、茎突舌筋、縦隔に浸潤する腫瘍を含む頸部軟部組織、前頸筋群、甲状腺、食道に浸潤する腫瘍
- T4b 椎前間隙に浸潤する腫瘍、頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍、縦隔に浸潤する腫瘍

声門

- T1 声帯運動が正常で、(一側)声帯に限局する腫瘍(前または後連合に達してもよい)
- T1a 一側声帯に限局する腫瘍
- T1b 両側声帯に浸潤する腫瘍
- T2 声門上部、および/または声門下部に進展するもの、および/または声帯運動の制限を伴う腫瘍
- T3 声帯が固定し喉頭内に限局する腫瘍、および/または傍声帯間隙および/または甲状軟骨の内側に浸潤する腫瘍
- T4a 甲状軟骨の外側を破って浸潤する腫瘍、および/または喉頭後、すなわち気管、舌深層の筋肉/外舌筋(オトガイ舌筋、舌骨舌筋、口蓋舌筋、茎突舌筋)を含む頸部軟部組織、前頸筋群、甲状腺、食道に浸潤する腫瘍
- T4b 椎前間隙に浸潤する腫瘍、頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍、縦隔に浸潤する腫瘍

声門下部

- T1 声門下部に限局する腫瘍
- T2 声帯に進展し、その運動が正常か制限されている腫瘍
- T3 声帯が固定し、喉頭内に限局する腫瘍
- T4a 輪状軟骨あるいは甲状軟骨に浸潤する腫瘍、および/または喉頭外、すなわち気管、舌深層の筋肉/外舌筋(オトガイ舌筋、舌骨舌筋、口蓋舌筋、茎突舌筋)を含む頸部軟部組織、前頸筋群、甲状腺、食道に浸潤する腫瘍
- T4b 椎前間隙に浸潤する腫瘍、頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍、縦隔に浸潤する腫瘍

7 鼻腔および副鼻腔

● T 因子

上顎洞

- T1 上顎洞粘膜に限局する腫瘍、骨吸収または骨破壊を認めない
- T2 骨吸収または骨破壊のある腫瘍、硬口蓋および/または中鼻道に進展する腫瘍を含むが、上顎洞後壁および翼状突起に進展する腫瘍を除く
- T3 上顎洞後壁の骨、皮下組織、眼窩底または眼窩内側壁、翼突窩、篩骨洞のいずれかに浸潤する腫瘍
- T4a 眼窩内容前部、頬部皮膚、翼状突起、側頭下窩、篩板、蝶形洞、前頭洞のいずれかに浸潤する腫瘍
- T4b 眼窩尖端、硬膜、脳、中頭蓋窩、三叉神経第二枝以外の脳神経、上咽頭、斜台のいずれかに浸潤する腫瘍

鼻腔・篩骨洞

- T1 骨浸潤の有無に関係なく、鼻腔または篩骨洞の1亜部位に限局する腫瘍
- T2 骨浸潤の有無に関係なく、鼻腔または篩骨洞の2つの亜部位に浸潤する腫瘍、または鼻腔および篩骨洞の両方に浸潤する腫瘍
- T3 眼窩内側壁または眼窩底、上顎洞、口蓋、篩板のいずれかに浸潤する腫瘍
- T4a 眼窩内容前部、外鼻の皮膚頬部皮膚、前頭蓋窩(軽度進展)、翼状突起、蝶形洞、前頭洞のいずれかに浸潤する腫瘍
- T4b 眼窩尖端、硬膜、脳、中頭蓋窩、三叉神経第二枝以外の脳神経、上咽頭、斜台のいずれかに浸潤する腫瘍

8 大唾液腺

● T 因子

T1	最大径が 2cm 以下の腫瘍で、実質外進展*なし
T2	最大径が 2cm を超えるが 4cm 以下の腫瘍で、実質外進展*なし
T3	最大径が 4cm を超える腫瘍、および/または実質外進展*を伴う腫瘍
T4a	皮膚、下顎骨、外耳道、および/または顔面神経に浸潤する腫瘍
T4b	頭蓋底、および/または翼状突起に浸潤する腫瘍、および/または頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍

注：*実質外進展とは臨床的または肉眼的に軟部組織または神経に浸潤しているものをいう。ただし、T4a および T4b に定義された組織への浸潤は除く。顕微鏡的証拠のみでは臨床分類上、実質外進展とはならない。

〈今村善宣、清田尚臣〉

2 CTCAE 4.0

● 骨髄抑制・血液毒性

Term	Grade 1	Grade 2	Grade 3	Grade 4	Grade 5
白血球減少 WBC decreased	・ <LLN-3000/mm ³	・ <3000-2000/mm ³	・ <2000-1000/mm ³	・ <1000/mm ³	-
好中球数減少 Neutrophil count decreased	・ <LLN-1500/mm ³	・ <1500-1000/mm ³	・ <1000-500/mm ³	・ <500/mm ³	-
貧血 Anemia	・ Hb<LLN-10.0g/dL	・ Hb<10.0-8.0g/dL	・ Hb<8.0g/dL ・ 輸血を要する	・ 生命を脅かす ・ 緊急処置を要する	死亡
血小板数減少 Platelet count decreased	・ <LLN-75000/mm ³	・ <75000-50000/mm ³	・ <50000-25000/mm ³	・ <25000/mm ³	-
発熱性好中球減少症 Febrile neutropenia	-	-	・ ANC<1000/mm ³ で、かつ、1回でも38.3℃を超える。または1時間を超えて持続する38℃以上の発熱	・ 生命を脅かす ・ 緊急処置を要する	死亡

● 血液生化学検査の異常

Term	Grade 1	Grade 2	Grade 3	Grade 4	Grade 5
AST/ALT 増加 AST/ALT increased	・ >ULN-3.0×ULN	・ >3.0-5.0×ULN	・ >5.0-20.0×ULN	・ >20.0×ULN	-
ALP 増加 ALP increased	・ >ULN-2.5×ULN	・ >2.5-5.0×ULN	・ >5.0-20.0×ULN	・ >20.0×ULN	-
血中ビリルビン増加 Blood bilirubin increased	・ >ULN-1.5×ULN	・ >1.5-3.0×ULN	・ >3.0-10.0×ULN	・ >10.0×ULN	-
クレアチニン増加 Creatinine increased	・ >1-1.5×ベースライン ・ >ULN-1.5×ULN	・ >1.5-3.0×ベースライン ・ >1.5-3.0×ULN	・ >3.0×ベースライン ・ >3.0-6.0×ULN	・ >6.0×ULN	-
高カルシウム血症 Hypercalcemia	・ 補正血清カルシウム>ULN-115mg/dL	・ 補正血清カルシウム>115-125mg/dL ・ 症状がある	・ 補正血清カルシウム>125-135mg/dL ・ 入院を要する	・ 補正血清カルシウム>135mg/dL ・ 生命を脅かす	死亡
低ナトリウム血症 Hyponatremia	・ <LLN-130mmol/L	-	・ <130-120mmol/L	・ <120mmol/L ・ 生命を脅かす	死亡
低カリウム血症 Hypokalemia	・ <LLN-3.0mmol/L	・ <LLN-3.0mmol/L ・ 症状がある ・ 治療を要する	・ <3.0-2.5mmol/L ・ 入院を要する	・ <2.5mmol/L ・ 生命を脅かす	死亡
低カルシウム血症 Hypocalcemia	・ 補正血清カルシウム<LLN-8.0mg/dL	・ 補正血清カルシウム<8.0-7.0mg/dL ・ 症状がある	・ 補正血清カルシウム<7.0-6.0mg/dL ・ 入院を要する	・ 補正血清カルシウム<6.0mg/dL ・ 生命を脅かす	死亡
低マグネシウム血症 Hypomagnesemia	・ <LLN-1.2mg/dL	・ <1.2-0.9mg/dL	・ <0.9-0.7mg/dL	・ <0.7mg/dL ・ 生命を脅かす	死亡

LLN: (施設)基準値下限, ULN: (施設)基準値上限

CTCAE 4.0 は、有害事象共通用語基準 v4.0 日本語訳 JCOG 版より転載、一部改変。
※部分的に省略を行っているため、利用の際は、日本語訳 JCOG 版原文を参照のこと
JCOG ホームページ (<http://www.jcog.jp>)

● 薬物投与時の障害

Term	Grade 1	Grade 2	Grade 3	Grade 4	Grade 5
アレルギー反応 Allergic reaction	<ul style="list-style-type: none"> 一過性の潮紅または皮疹 <38℃の薬剤熱 治療を要さない 	<ul style="list-style-type: none"> 治療または点滴の中断が必要。ただし症状に対する治療には速やかに反応する ≤24時間の予防的投薬を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 遷延 一度改善しても再発する 続発症により入院を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生命を脅かす 緊急処置を要する 	死亡
アナフィラキシー Anaphylaxis	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 蕁麻疹の有無によらず症状のある気管支痙攣 非経口的治療を要する アレルギーによる浮腫/血管性浮腫 血圧低下 	<ul style="list-style-type: none"> 生命を脅かす 緊急処置を要する 	死亡
注入に伴う反応 Infusion related reaction	<ul style="list-style-type: none"> 軽度で一過性の反応 点滴の中断を要さない 治療を要さない 	<ul style="list-style-type: none"> 治療または点滴の中断が必要。ただし症状に対する治療には速やかに反応する ≤24時間の予防的投薬を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 遷延 一度改善しても再発する 続発症により入院を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 生命を脅かす 緊急処置を要する 	死亡
注入部位血管外漏出 Infusion site extravasation	-	<ul style="list-style-type: none"> 症状を伴う紅斑(例:浮腫, 疼痛, 硬結, 静脈炎) 	<ul style="list-style-type: none"> 潰瘍または壊死 高度の組織損傷 外科的処置を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 生命を脅かす 緊急処置を要する 	死亡

● 一般・全身障害および感染症

Term	Grade 1	Grade 2	Grade 3	Grade 4	Grade 5
発熱 Fever	38.0-39.0℃	>39.0-40.0℃	>40.0℃ が ≤24時間持続	>40.0℃ が >24時間持続	死亡
疼痛 Pain	軽度の疼痛	<ul style="list-style-type: none"> 中等度の疼痛 身の回り以外の日常生活動作の制限 	<ul style="list-style-type: none"> 高度の疼痛 身の回りの日常生活動作の制限 	-	-
疲労 Fatigue	休息により軽快する疲労	<ul style="list-style-type: none"> 休息によって軽快しない疲労 身の回り以外の日常生活動作の制限 	<ul style="list-style-type: none"> 休息によって軽快しない疲労 身の回りの日常生活動作の制限 	-	-
カテーテル関連感染 Catheter related infection	-	<ul style="list-style-type: none"> 限局性 局所的処置を要する 内服治療を要する(例:抗菌薬/抗真菌薬/抗ウイルス薬) 	<ul style="list-style-type: none"> 抗菌薬/抗真菌薬/抗ウイルス薬の静脈内投与による治療を要する IVRによる処置または外科的処置を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 生命を脅かす 緊急処置を要する 	死亡
肺感染 Lung infection	-	<ul style="list-style-type: none"> 中等度の症状がある 内服治療を要する(例:抗菌薬/抗真菌薬/抗ウイルス薬) 	<ul style="list-style-type: none"> 抗菌薬/抗真菌薬/抗ウイルス薬の静脈内投与による治療を要する IVRによる処置/内視鏡的処置/外科的処置を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 生命を脅かす 緊急処置を要する 	死亡
尿路感染/中耳炎/ 副鼻腔炎/歯感染/ 創傷感染	-	<ul style="list-style-type: none"> 限局性 局所的処置を要する 内服治療を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 静注治療を要する IVRによる処置または外科的処置を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 生命を脅かす 緊急処置を要する 	死亡
敗血症 Sepsis	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 生命を脅かす 緊急処置を要する 	死亡

● 耳鼻咽喉領域の障害

Term	Grade 1	Grade 2	Grade 3	Grade 4	Grade 5
聴覚障害 Hearing impaired	<ul style="list-style-type: none"> 15-25dBの閾値変動 記録として残る聴力損失はないが聴力の自覚的な変化がある 	<ul style="list-style-type: none"> >25dBの閾値変動 補聴器/治療を要さない聴力低下 身の回りの日常生活動作の制限 	<ul style="list-style-type: none"> >25dBの閾値変動; 治療を要する 補聴器/治療を要する聴力低下 身の回りの日常生活動作の制限 	<ul style="list-style-type: none"> 両側の顕著な聴力低下 (≥ 2 kHzで閾値の絶対値が>80dB) 日常生活で用をなさない聴力 	-
咽頭粘膜炎 Pharyngeal mucositis	<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡的所見のみ 通常の経口摂取が可能な軽微な症状 軽度の疼痛があるが鎮痛薬を要さない 	<ul style="list-style-type: none"> 中等度の疼痛があり鎮痛薬を要する 経口摂取に影響あり 身の回り以外の日常生活動作の制限 	<ul style="list-style-type: none"> 高度の疼痛 十分な栄養や水分の経口摂取ができない 身の回りの日常生活動作の制限 	<ul style="list-style-type: none"> 生命を脅かす 緊急処置を要する 	死亡
嚥下障害 Dysphagia	<ul style="list-style-type: none"> 症状があるが、通常食の摂取が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 症状があり、摂食/嚥下に影響がある 	<ul style="list-style-type: none"> 摂食/嚥下に重大な影響 経管栄養/TPN/入院を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 生命を脅かす 緊急処置を要する 	死亡
誤嚥 Aspiration	<ul style="list-style-type: none"> 症状がない 臨床所見または検査所見のみ 治療を要さない 	<ul style="list-style-type: none"> 誤嚥に伴う摂食習慣の制約 食事や嚥下後の咳や窒息のエピソード 内科的治療を要する(例: 吸引, 酸素) 	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸困難と肺炎の症状(例: 誤嚥性肺炎) 入院を要する 経口的に栄養摂取できない 	<ul style="list-style-type: none"> 生命を脅かす呼吸障害/循環動態の悪化 挿管/緊急処置を要する 	死亡
嚙声 Hoarseness	<ul style="list-style-type: none"> 軽度または間欠的な声の変化、ただし完全に聞き取れる 自然に回復する 	<ul style="list-style-type: none"> 中等度または持続的な声の変化、時に反唱が必要であるが、電話で聞き取れる 医学的評価を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 高度の声の変化(ほとんどがささやき声になる) 	-	-

● 顎口腔領域の障害

Term	Grade 1	Grade 2	Grade 3	Grade 4	Grade 5
口腔粘膜炎 Mucositis oral	<ul style="list-style-type: none"> 症状がない、または軽度の症状がある 治療を要さない 	<ul style="list-style-type: none"> 中等度の疼痛 経口摂取に支障がない 食事の変更を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 高度の疼痛 経口摂取に支障がある 	<ul style="list-style-type: none"> 生命を脅かす 緊急処置を要する 	死亡
口内乾燥 Dry mouth	<ul style="list-style-type: none"> 症状があるが、顕著な摂食習慣の変化がない 	<ul style="list-style-type: none"> 中等度の症状がある 経口摂取に影響がある 	<ul style="list-style-type: none"> 十分な経口摂取が不可能 経管栄養またはTPNを要する 	-	-
顎骨壊死 Osteonecrosis of jaw	<ul style="list-style-type: none"> 症状がない 臨床所見または検査所見のみ 治療を要さない 	<ul style="list-style-type: none"> 症状がある 内科的治療を要する 身の回り以外の日常生活動作の制限 	<ul style="list-style-type: none"> 高度の症状がある 身の回りの日常生活動作の制限 選択的外科的治療を要する 活動不能/動作不能 	<ul style="list-style-type: none"> 生命を脅かす 緊急処置を要する 	死亡
開口障害 Trismus	<ul style="list-style-type: none"> 摂食障害を伴わない可動域の減少 	<ul style="list-style-type: none"> きざみ食/軟らかい食事/ピューレを必要とする可動域の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養や水分を十分に経口摂取できない可動域の減少 	-	-

● 摂食障害および消化器障害

Term	Grade 1	Grade 2	Grade 3	Grade 4	Grade 5
食欲不振 Anorexia	・食生活の変化を伴わない食欲低下	・顕著な体重減少や栄養失調を伴わない摂食量の変化 ・経口栄養剤による補充を要する	・顕著な体重減少または栄養失調を伴う ・静脈内輸液/経管栄養/TPNを要する	・生命を脅かす ・緊急処置を要する	死亡
脱水 Dehydration	・経口水分補給の増加を要する ・粘膜の乾燥 ・皮膚ツルゴールの低下	・<24時間の静脈内輸液を要する	・≥24時間の静脈内輸液または入院を要する	・生命を脅かす ・緊急処置を要する	死亡
味覚異常 Dysgeusia	・味覚の変化はあるが食生活は変わらない	・食生活の変化を伴う味覚変化 ・不快な味 ・味の消失	-	-	-
悪心 Nausea	・摂食習慣に影響のない食欲低下	・顕著な体重減少、脱水または栄養失調を伴わない経口摂取量の減少	・カロリーや水分の経口摂取が不十分 ・経管栄養/TPN/入院を要する	-	-
嘔吐 Vomiting	・24時間に1-2エピソードの嘔吐(5分以上間隔が開いたものをそれぞれ1エピソードとする)	・24時間に3-5エピソードの嘔吐	・24時間に6エピソード以上の嘔吐 ・TPNまたは入院を要する	・生命を脅かす ・緊急処置を要する	死亡
便秘 Constipation	・不定期または間欠的な症状 ・便軟化剤/緩下剤/食事の工夫/浣腸を不定期に使用	・緩下剤または浣腸の定期的使用を要する持続的な症状 ・身の回り以外の日常生活動作の制限	・排便を要する頑固な便秘 ・身の回りの日常生活動作の制限	・生命を脅かす ・緊急処置を要する	死亡
下痢 Diarrhea	・ベースラインと比べて<4回/日の排便回数増加	・ベースラインと比べて4-6回/日の排便回数増加	・ベースラインと比べて7回以上/日の排便回数増加 ・便失禁 ・入院を要する ・身の回りの日常生活動作の制限	・生命を脅かす ・緊急処置を要する	死亡

● 肺障害

Term	Grade 1	Grade 2	Grade 3	Grade 4	Grade 5
呼吸困難 Dyspnea	・中等度の労作に伴う息切れ	・極めて軽度の労作に伴う息切れ ・身の回り以外の日常生活動作の制限	・安静時の息切れ ・身の回りの日常生活動作の制限	・生命を脅かす ・緊急処置を要する	死亡
肺炎 Pneumonitis	・症状がない ・臨床所見または検査所見のみ ・治療を要さない	・症状がある ・内科的治療を要する ・身の回り以外の日常生活動作の制限	・高度の症状がある ・身の回りの日常生活動作の制限 ・酸素を要する	・生命を脅かす ・緊急処置を要する(例:気管切開/挿管)	死亡

● 神経障害

Term	Grade 1	Grade 2	Grade 3	Grade 4	Grade 5
末梢性運動ニューロパチー Peripheral motor neuropathy	・症状がない ・臨床所見または検査所見のみ ・治療を要さない	・中等度の症状がある ・身の回り以外の日常生活動作の制限	・高度の症状がある ・身の回りの日常生活動作の制限 ・補助具を要する	・生命を脅かす ・緊急処置を要する	死亡
末梢性感覚ニューロパチー Peripheral sensory neuropathy	・症状がない ・深部腱反射の低下または知覚異常	・中等度の症状がある ・身の回り以外の日常生活動作の制限	・高度の症状がある ・身の回りの日常生活動作の制限	・生命を脅かす ・緊急処置を要する	死亡

● 皮膚障害

Term	Grade 1	Grade 2	Grade 3	Grade 4	Grade 5
脱毛症 Alopecia	<ul style="list-style-type: none"> 遠くからではわからないが近くで見ると正常よりも明らかな50%未満の脱毛 脱毛を隠すために、かつらやヘアピースは必要ないが、通常と異なる髪形が必要となる 	<ul style="list-style-type: none"> 他人にも容易に明らかなる50%以上の脱毛 患者が脱毛を完全に隠したいと望めば、かつらやヘアピースが必要 社会心理学的な影響を伴う 	-	-	-
皮膚乾燥 Dry skin	<ul style="list-style-type: none"> 体表面積の<10%を占めるが紅斑やそう痒は伴わない 	<ul style="list-style-type: none"> 体表面積の10-30%を占め、紅斑またはそう痒を伴う 身の回り以外の日常生活動作の制限 	<ul style="list-style-type: none"> 体表面積の>30%を占め、そう痒を伴う 身の回りの日常生活動作の制限 	-	-
ざ瘡様皮疹 Rash acneiform	<ul style="list-style-type: none"> 体表面積の<10%を占める紅色丘疹および/または膿疱で、そう痒や圧痛の有無は問わない 	<ul style="list-style-type: none"> 体表面積の10-30%を占める紅色丘疹および/または膿疱で、そう痒や圧痛の有無は問わない 社会心理学的な影響を伴う 身の回り以外の日常生活動作の制限 	<ul style="list-style-type: none"> 体表面積の>30%を占める紅色丘疹および/または膿疱で、そう痒や圧痛の有無は問わない 身の回りの日常生活動作の制限 経口抗菌薬を要する局所の重複感染 	<ul style="list-style-type: none"> 紅色丘疹および/または膿疱が体表のどの程度の面積を占めるかによらず、そう痒や圧痛の有無も問わないが、静注抗菌薬を要する広範囲の局所の二次感染を伴う 生命を脅かす 	死亡
爪囲炎 Paronychia	<ul style="list-style-type: none"> 爪襷の浮腫や紅斑 角質の剥脱 	<ul style="list-style-type: none"> 局所的処置を要する 内服治療を要する 疼痛を伴う爪襷の浮腫や紅斑 滲出液や爪の分離を伴う 身の回り以外の日常生活動作の制限 	<ul style="list-style-type: none"> 外科的処置や静注治療を要する 身の回りの日常生活動作の制限 	-	-
手掌・足底発赤知覚不全症候群 Palmar-plantar erythrodysesthesia syndrome	<ul style="list-style-type: none"> 疼痛を伴わないわずかな皮膚の変化または皮膚炎(例:紅斑、浮腫、角質増殖症) 	<ul style="list-style-type: none"> 疼痛を伴う皮膚の変化(例:角層剥離、水疱、出血、浮腫、角質増殖症) 身の回り以外の日常生活動作の制限 	<ul style="list-style-type: none"> 疼痛を伴う高度の皮膚の変化(例:角層剥離、水疱、出血、浮腫、角質増殖症) 身の回りの日常生活動作の制限 	-	-
放射線性皮膚炎 Dermatitis radiation	<ul style="list-style-type: none"> わずかな紅斑や乾性落屑 	<ul style="list-style-type: none"> 中等度から高度の紅斑 またたな湿性落屑。ただしほとんどが皸や皸に限局している 中等度の浮腫 	<ul style="list-style-type: none"> 皸や皸以外の部位の湿性落屑 軽度の外傷や摩擦により出血する 	<ul style="list-style-type: none"> 生命を脅かす 皮膚全層の壊死や潰瘍 病変部より自然に出血する 皮膚移植を要する 	死亡

〈今村善宣, 清田尚臣〉

索引

■あ

アセトアミノフェン	145
アルコール依存症	5

■い

異所性 ADH 産生腫瘍	123
胃瘻	3, 35
インフォームド・コンセント	2
インフュージョンリアクション	59, 69, 136

■え

栄養サポートチーム	33
栄養士	32
栄養障害	32
エビデンス・レベル	20
遠隔転移再発	56
嚥下運動	34
嚥下障害	3, 169
嚥下痛	4
嚥下内視鏡検査	35
エンテカビル	140

■か

外来化学療法	22
化学放射線療法	2, 11
顎骨壊死	96, 99, 150
核酸アナログ	140
過敏症発現防止	80
過敏反応	80
カルボプラチン(CBDCA)	50, 58, 65, 118
看護師	30
カンジダ	154
間質性肺障害	5
肝障害時の用量調節	81

乾皮症・皮膚亀裂	134
緩和的薬学療法	177

■き

キーパーソン	4
気管切開	5
喫煙者	5
機能温存希望	12
ギメラシル	83
客観的栄養評価	165
救済手術	2
急性嘔吐	113
強度変調放射線治療	37

■け

経口抗がん薬	85
経皮内視鏡的胃瘻造設術	167
外科的切除可能	3
血漿浸透圧	120
血小板減少	87

■こ

構音障害	3
抗がん薬による嘔気・嘔吐	113
抗がん薬による末梢神経障害	126
口腔合併症	149
口腔乾燥症	169
口腔ケア	149
口腔粘膜炎	150
喉頭温存希望	15
口内炎	144
コメディカル	30
根治切除不能	3, 12

■さ

再活性化	139
瘡瘡様皮疹	133
殺細胞性抗がん薬	22

■し

歯科医師	28
歯科治療	155
耳管狭窄症	129
シクロホスファミド	73
支持療法	21, 143
シスプラチン(CDDP)	26, 40, 44, 50, 58, 62, 68, 73, 117
菌性感染病巣	151
主観的包括的評価	165
術後補助化学療法	14
上咽頭がん	11
腎機能低下	83
神経障害性疼痛	128
滲出性中耳炎	129
腎障害	117

■せ

生存延長	17
セツキシマブ	16, 47, 58
セツキシマブ併用化学放射線療法	47
摂食障害	4

■そ

臓器機能温存	57
爪周囲炎	134
ソーシャルワーカー	35
ゾレドロン酸	95

■た

体液貯留	70
ダカルバジン(DTIC)	90
多職種チーム医療	21

■ち

遅発性嘔吐	113
中咽頭がん	93
中心静脈カテーテル	167
中枢性 / 腎性塩類喪失症候群	122
聴力障害	128

■て

低 Ca 血症	96
低 Mg 血症	123
低 Na 血症	120
デノスマブ	98
転移・再発頭頸部がん	58
転移・再発頭頸部扁平上皮がん	18

■と

導入化学療法	2, 13, 14, 56
ドキシソビシン	73
ドセタキセル(DTX)	50, 68, 77

■ね

ネダプラチン	87
ネダプラチン療法	87
粘膜炎	144

■は

パクリタキセル	18, 77, 80
ハチアズレ	152
白金製剤治療歴	83
発熱性好中球減少(症)	78, 84, 104
反回神経麻痺	5

■ひ

非固着性創傷被覆材	161
ヒト乳頭腫ウイルス	93
皮膚症状(毒性)	59, 132
標準治療	9

■ふ	
ブラッシング	154
分子標的治療薬	16, 22

■ほ	
放射線性皮膚炎	158

■ま	
末梢神経障害	81
末梢挿入中心静脈カテーテル	167

■み	
味覚異常	169

■む	
無症候性キャリア	140
モルヒネ	144

■や	
薬剤師	30

■よ	
予期嘔吐	113

■り	
リコール現象	163
リハビリテーション	34
流涙	84
臨床試験	9

■わ	
ワルファリンカリウム	85

■数字	
5-FU	50, 58, 62, 65
5-FU+CBDCA 療法	65
5-FU+CDDP+セツキシマブ 療法	58
5-FU+CDDP 療法(FP 療法)	62

■B	
B型肝炎ウイルス	139

■C	
Calvert の式	118
CAP 療法	73
CBDCA(カルボプラチン)	50, 58, 65, 118
CBDCA 併用化学放射線療法	50
CDDP(シスプラチン)	26, 40, 44, 50, 62, 68, 73, 117
CDDP 併用化学放射線療法	40
chemoselection	57
CINV(chemotherapy induced nausea and vomiting)	113
CIPN(chemotherapy induced peripheral neuropathy)	126
C/R SWS(cerebral/renal salt wasting syndrome)	122
CRT	11
CTCAE 4.0	181
CVC(central venous catheter)	167
CYP3A4	70

■D	
DC(DTX+CDDP)療法	68
DeCoP(dermatitis control program)	159
DTIC(ダカルバジン)	90
DTIC 療法	90
DTX(ドセタキセル)	50, 68, 77
DTX 療法	77

■E	
EGFR 阻害薬	131
EORTC QLQ	156
EXTREME 試験	65

■ F	
FACT	156
FN(febrile neutropenia)	78, 104
FP	58, 62

■ G	
G-CSF(granulocyte-colony stimulating factor)製剤	110
GPS(Glasgow prognostic score)	166

■ H	
Harris Benedict 式	168
HPV(human papillomavirus)	93, 140

■ I	
IMRT(intensity-modulated radiotherapy)	37
inflammation-based prognostic score	166
IR(infusion reaction)	59, 136

■ M	
MASCC スコア(Multinational Association for Supportive Care in Cancer scoring system)	105, 106

■ N	
NCCN ガイドライン	20
NSAIDs	78
NST	33

■ O	
ODA(objective data assessment)	165
opioid based pain control program	144

■ P	
PDCA サイクル	28
PEG(percutaneous endoscopic gastrostomy)	167
PICC(peripheral inserted central venous catheter)	167
PTX(パクリタキセル)	18, 77, 80

■ S	
SGA(subjective global assessment)	165
SIADH	121

■ T	
tissue bank	101
TNM 分類	174
TPF 療法	15, 19, 50
TR(translational research)	100
TS-1	83
TS-1 療法	83
tumor board	21

■ W	
weekly CDDP 併用化学放射線療法	44
weekly PTX 療法	80

とうけいぶ か がくりょうほう
頭頸部がん化学療法ハンドブック ©

発行 2014年5月15日 1版1刷
2014年9月1日 1版2刷

監修者 ふじい まさと
藤井 正人

編集者 たはら まこと
田原 信
きよた なおみ
清田 尚臣

発行者 株式会社 中外医学社
代表取締役 青木 滋
〒162-0805 東京都新宿区矢来町62
電話 (03) 3268-2701 (代)
振替口座 00190-1-98814 番

印刷・製本/横山印刷(株)
ISBN978-4-498-06268-9

〈MS・KN〉
Printed in Japan

JCOPY

〈(社)出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。
複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構
(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.
or.jp) の許諾を得てください。



9784498062689



1923047028006

ISBN978-4-498-06268-9
C3047 ¥2800E



定価 (本体 2,800円+税)